

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270102777		
法人名	社会福祉法人 啓正会		
事業所名	グループホーム モン・サン西山1		
所在地	長崎県長崎市西山1丁目2番7号		
自己評価作成日	平成26年10月1日	評価結果市町村受理日	平成26年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成26年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念「楽しく・優しく・元気よく」 ユニット理念「明るく、楽しく、その人らしく、優しいケア」
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は地域密着型サービスの基本となる地域とのかかわりを重視し、自治会と連携するため今年度内部にレクリエーション・地域交流委員会を設立し、積極的に地域との交流に努めている。例えば例年事業所内で開催していた「西山くんち」を今年は近隣の公園で実施し、地域の人の参加を促している。また、夜警を引き受けたり、地域の人に門松づくりを習ったり、学童保育の児童との交流など様々な取組みが確認できる。また、利用者家族の集まるきっかけを模索し、ビアホールと称する食事会を催し、職員はウエイターに扮してサービスするなど参加した家族と利用者を楽しんでもらえるよう趣向を凝らしている。利用者の意向や希望を聞き取り個別支援としてドライブや外食などを実現する取組みもある。管理者は職員が自発的、自主的に提案することを重視しており、全職員で企画する地域に密着した取組みが楽しみな事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念「楽しく・優しく・元気よく」ユニット理念「明るく、楽しく、その人らしく、優しいケア」を共有し、事業所内だけでなく、地域活動などに対しても、開かれた関係作りに努めている。	事業所開設時に「優しく・楽しく・元気よく」という理念を掲げている。職員全員で話し合っって決めたユニット理念に基づき各自が目標を立て、1年間の取組みを発表する場を設け、日々の支援の中で理念が実現出来るように努めている。理念は事業所内に掲示され、誰もが確認できる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・自治会作品展・精霊流し・年末夜警等の地域行事への協力依頼や、事業所行事の際には自治会協力を得られる関係が出来ている。	法人で自治会に加入している。自治会主催の消防訓練や夜警に協力するほか、事業所の行事を近隣公園で開催して地域住民とふれあう時間を設けたり、認知症講習会の開催、職場体験学習の受入れなど、地域との関わりを積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	長崎市役所高齢者すこやか支援課・片淵包括支援センターと協同となり、自治会公民館にて地域住民の方に対する「認知症講座」をH24年度2回 H25年度1回開催。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所での取り組み及び、協力依頼を出す良い機会としてサービスの向上へ活かしている。行政機関との情報交換にも活用出来ている。	会議は2ヶ月に1回、偶数月に開催されており構成メンバーの要件を満たしている。内容は事業所の活動報告のほか、自治会や行政からの報告・提案など情報交換が活発なことが議事録で確認できる。現在は「西山地区防災マップ作り」に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での定期的な報告により受ける助言を活用している。包括支援センターより地域の方に対する「認知症講座」への協力依頼を昨年・一昨年は受けている。	介護認定更新や各種書類申請の際は、担当者が必要に応じて連絡を取り合っている。行政から地域住民に向けての「認知症講座」の協力依頼があり、認知症サポーターの見学を受け入れるなど、市町村からの要望や情報があれば随時対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	平成25年4月より、事業所内で「身体拘束・高齢者虐待防止委員会」設立。代表者が身体拘束により起こる弊害を伝えるだけでなく、現場職員が主体となって、防止に対する啓発を行っている。	身体拘束を行わないという前提のもと、利用者の安全性を考慮し、家族の了解を得た場合にセンサーマットの設置を行っている。職員は言葉の拘束にならないよう言葉掛けを工夫し、月1回の全体会議で拘束防止の啓発を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内「身体拘束・虐待防止委員会」により、概ね月に1度会議を行い、毎月の啓発活動に取り組んでいる。事業所内勉強会でも同テーマに基づいた内容にて、実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に事業所内勉強会及び法人内研修会で用いた実績あり。活用する支援については、必要とされるご家族に対しては、制度の紹介する程度に留まっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を合わせて説明。不安点・疑問点については、事業所での取り組みについて説明し、解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の要望については、各職員で取り上げサービスの向上に繋げている。ご家族の苦情・要望についても、内容を他ユニット職員も周知する事で再発の防止に努める。事業所玄関にはご意見箱を設置してるが、活用の機会が少ない現状である。	利用者からは日々の会話の中で、家族からは訪問時や電話連絡時に要望等を聞き取っている。具体的には日々の介護支援に関わるものが多いが、ビアホールと称する食事を開催し家族交流を行ったり、委員会が中心となり広報誌等写真の提供を行っている。苦情や相談受付の窓口は明確である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場職員の意見をより代表者へ伝えるように、職員個人の意見でなく、ユニット職員会議・委員会会議などで意見をまとめる事で、全体会議の場で複数の意見として提案している。	月1度のユニット会議や委員会会議で職員の意見や要望を聞き、行事に関するアイデアやケアに使用する道具の購入等を法人内の全体会議で検討している。承認を得た企画提案は実践している。また、個人面談時の「能力開発カード」等を用い職員の要望等を聞き、支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	H26年4月より、各ユニットへ副リーダー配置。その他、各委員会活動においても委員長を定めるなど役割が与えられ、やりがい向上心に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内にて、月に1度勉強会実施。法人内研修月に1度実施。その他、外部の研修についても受講希望の職員はシフト調整がなされている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内研修会での他事業所との交流及び、「法人ケアに沿った事例検討」をテーマとした研修では当事業所職員が担当した実績あり。法人外のグループホームについても、長崎市グループホーム連絡協議会にて同じブロックの事業所の夏祭りへの案内を受けるなど交流がなされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	各ご利用者様に対し、担当職員を配置する事で本人様との関係作りに努めている。担当職員の主の役割として、その方の状況・状態把握。あるいは生活していくうえでの意向や目標をくみ取る役割としている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の対応として、環境の変化に戸惑う方も多い、御家族への想いを口に出される方は、御家族に対して面会や電話連絡などの協力依頼をさせて頂く事もある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前面談の際、本人様の状態や意向を確認させて頂くように努めている。ご家族に対しても同様である。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	過去の職業や趣味(裁縫・ケーキ作り・将棋等)に関する協力を依頼する事で、暮らしを共に過ごすといった関係作りに繋げている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族も参加して楽しめるような行事を企画し、同じ時を共に過ごせる機会の提供に努めている。また、本人様の訴えを汲み取り、御家族の協力が必要な際は職員より代弁させて頂く事もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前より馴染みのあった場所への外出支援は調整を図り努めている。本人様の訴えが少ない方に対しても外出の気分転換を図るように努めている。	利用者の基本情報の生活歴から馴染みの美容室や教会、墓参りに出掛ける支援を行っている。利用者の友人や知人がホームへ来訪する事もある。利用者が以前住んでいた自宅近くにドライブする事で知人に会う等、昔馴染みの大切な関係が途切れないような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事での座席などの配慮、レクリエーションを他ユニットと合同で行うなど、ユニット内に限らず交流の場を持つことで、お互いが支えあえるような支援に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居となった方についても、病院や他事業所へお見舞い・面会に伺っている。また、法人内事業所へ移られた方について、相談できる窓口として取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の外出の要望などには、調整を図り同行している。必要時にはご家族への相談・協力を得ながら支援を行っている。	職員は利用者一人ひとりとゆっくり話す時間をつくり、利用者の表情や態度から希望や意向の把握に努めている。家族からの聞き取り等で好みの飲み物を提供している事例がある。発語困難な場合は筆談でコミュニケーションを取る場合もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様からの聞き取りによる情報収集と共に、ご家族からの聞き取り、入居前情報提供等での把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	週に1度ユニット会議開催。その場で、入居者様の様子を報告しあい、現状の把握と共に、対応できるケアについて検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者が主となり、アセスメント・モニタリングまた、本人様・ご家族の気持ちを汲み取り”長期目標”を定める支援を行っている。それを基に計画作成担当者を含めた仮計画書作成。ご家族も含めた介護計画書の原本作成へ取り組んでいる。	計画作成担当者は担当者からの意見等からケアプランの原案を作成し、サービス担当者会議には職員や家族・医療関係者が出席しており、意見を聞きケアプランに反映している。3ヶ月毎にモニタリングし、6ヶ月毎にカンファレンスを行い、作成した計画は家族の承認のもと実行している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテ・業務日誌に日々のご様子を記録している。週に1度開催しているユニット会議にて情報の共有を行い、対応できるケアについても検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の多機能化という面で、事業所の取り組みとして、年々新たな取り組みに掛かっている。行事に関しても、要望に近づけるような内容を検討実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会行事へ参加・他事業所行事へ参加・長崎市の催し物がある際の見物ドライブなど、地域に出る事で楽しみを提供できる機会作りに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科受診に関しては、系列の協力病院へ依頼。その他、耳鼻科・眼科等の受診に関しては、本人の希望される病院にて家族の同行できない場合は職員が受診に付き添っている。	母体が医療法人であり、専門の診療科について週1回の往診や看護師の訪問がある。協力医療機関との関係も密である。他の診療科を受診する際には職員が支援しており、薬の変更や症状の変化、受診結果など事業所と家族で情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異変に気付けるよう意識を高め努めている。また、情報は常に共有できるように細かな事も記録に残し、発生時は昼夜問わず早急に支持を仰ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、申し送り表に詳細に記録し、適した治療ができるように情報交換を密にしている。退院時も病院からのサマリーがあるので、入院時や治療の情報を把握し、保管している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状説明を医療機関でご家族と当事業所職員を交えて行い、家族の希望に沿った方針を決めて頂き、当事業所で出来ること、出来ないことを理解して頂き全職員が同じ対応で取り組んでいる。	利用開始時に利用者や家族に対して、重度化した場合や終末期対応について指針を説明し同意を得ている。利用者の状態に応じ、医療関係者を交えその後のケアについて話し合いが行われている。ホームで対応が可能な場合は看取りについても行うよう検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生やAEDの勉強会を事業所内で行っており、個人的にも消防署や日赤等の講座に参加している。救急サポートステーションとして登録している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的に防災訓練を実施している。また、勉強会でも防災を取り上げ、防災意識を高めている。自治会の自主防災組織に加入し、当事業所を災害時の一時避難場所として登録している。	消防署のアドバイスを基に災害時の避難誘導に必要な全体配置図を準備している。長崎市の消防訓練計画表に則り、毎月訓練を実施している。年1回消防署の立会いのもと総合訓練を実施し、地域住民に協力を依頼している。ただし、緊急連絡網や避難経路図、水などの備蓄、非常持ち出し品の整備はこれからである。	緊急時に備え、緊急連絡網や避難経路図、水などの備蓄、非常持ち出し品の早期整備が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所内で身体拘束・高齢者虐待防止委員会があり、精神的苦痛を与える事のない様に、各職員月間目標を掲げるなど、啓発活動に取り組んでおり、不適切な対応の際は注意しあうようにしている。	利用者への声かけは優しく穏やかな語調であり、本人の人格を尊重している。個人記録などは所定の場所に保管しており、守秘義務の誓約書は入社時に取り、更に退職時にも再度取っている。前回の気づきであった写真掲載の同意については同意書を作成し、同意を得て掲載している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の表情や行動を観察し、特に表現困難な利用者の方は、より注意を払っている。また、相談しやすい環境作りに心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	危険性や健康面に害しない範囲で利用者の希望や、自由を優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は、特に好みの服選びをして頂くようにしている。ご希望のない方に対しては、その方に似合っているもの、季節に合うものを提案し、着用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備を手伝って下さる方は、ゴマをすったり、野菜の下ごしらえ、テーブル拭きなどをお願いしている。	法人内栄養士が立てた献立を基に利用者の嗜好などに配慮し職員が調理している。行事食は利用者の希望を反映し、喜ばれるよう努めている。ビアホールと称する食事会では家族を招待し、職員がウエイターの扮装でサービスしたり、日常とは異なる食の楽しみに繋がるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取の記録を食事毎に行い、水分補給も時間を定めて提供している、水筒をお持ちの方は、ご自分で管理されている。また、好みの飲物に関しては、家族に持ち込み協力を頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助の必要でない方には、言葉かけにて対応している。介助の必要な方には、どこまでを自分で出来るかを見極めながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方にあった排泄支援を行っている。日中は出来るだけ布の下着で過ごして頂くなども行っている。時間や行動を察し、それぞれの誘導を行っている。	排泄が自立している利用者以外は、排泄チェックを記録し、誘導支援している。食事の前後は必ず声かけし、トイレでの排泄を促している。職員の誘導支援によって、病院退院時にはリハビリパンツを使用していた利用者が、布パンツに改善した例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態の記録により、その方のリズムで便秘薬を医師に相談の上、処方を受けている。日中の活動を促したり、水分摂取に配慮する事で、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事業所内の各フロア入浴日が違うので、希望があれば、毎日でも入浴できる環境ではある。音楽を流すなどして、楽しみまたは、癒しを感じる時間の提供に努めている。	3ユニットで連携し、毎日どこかのユニットが湯を沸かし入浴できる体制を整えている。利用者の好みのシャンプー、化粧品などにも対応しており、音楽を流し、昔話に花を咲かせるなど、入浴が楽しみになるよう努めている。車椅子利用者も湯船に浸かれるよう支援しているが、利用者の状態によってはシャワー浴のみの対応もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は強要せず、自由に過ごして頂いている。日中もお昼寝されたい方は、職員のごまめな言葉かけにより、短時間の安眠を得られるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	特に血圧の薬に関して、毎日の血圧測定の数値を基に、医療機関との連携に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやごみ袋作りなど、その方にあったお手伝いの協力を依頼し、役割を持っていただくよう支援している。また、趣味が楽しめる雰囲気作りに努め、その方にあったレベルの運動も提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望される方はすぐには対応出来ない時もあるが、同行し叶う様にしている。家族へも要望を相談し、ストレスを溜めないように努めている。	事業所周辺は道路が狭く、坂道でもあるため普通の散歩などは困難な現状がある。そのため、市内のドライブやランタンフェスティバル、おくんち、帆船まつりなどに出掛け、外気に触れる機会を多く作るよう工夫している。春秋のピクニックは桜や紅葉も見物するため利用者の楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方は、小額でもご自身で管理されている。事業所内の自動販売機で定期的に好みの飲物を購入される方もいらっしゃる。買い物の希望があった際は職員が同行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでも電話をかける事が出来るようにしている。手紙が届いた際、字が小さくて読みにくいと思われる場合は、職員が声を出して読む事で内容をお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音楽をかけたり、大きな窓からの自然光を利用し、居心地の良い空間を作っている。また、室内気温にも気を配り、温度調整を行っている。	各ユニットは同じ配置となっており、広く明るいリビングからは外の風景が一望できる。掃除は行き届いており、気になる臭気や音もなく、利用者は穏やかに過ごしている。ソファやテーブルセットなど思い思いの場所で寛ぎ、利用者同士で談笑する場面がある。金魚や亀、季節を感じる飾りつけなども工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士で、気のあった方もおられるので、ホールで楽しく過ごせるように、ソファの位置を考慮したり、逆に孤立する事の無いように心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	制限する事なく、本人様の好みを尊重しながら、既存の能力が活かせる様に工夫している。	各居室は利用者それぞれの個性があり、家族の協力を得てテレビや写真、趣味の囲碁、オセロなども確認できる。職員が清掃しており、時には利用者も一緒に掃除することもある。換気や温度調整にも配慮し、利用者にとって居心地のいい居室となるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室を迷われる方に対して、居室名札を目の高さの位置へ変更したり、花柄の印をつける事でわかりやすくしている。ホール内はてすりが取り付けられている為、歩行時は活用して頂くよう言葉かけを行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270102777		
法人名	社会福祉法人 啓正会		
事業所名	グループホーム モン・サン西山2		
所在地	長崎県長崎市西山1丁目2番7号		
自己評価作成日	平成26年9月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑顔を忘れず、毎日楽しく過ごす

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「優しく・楽しく・元気よく」をモットーに、目標などを決め、毎日のミーティングや申し送り時に話している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々への挨拶や会話を積極的に行うようにしている。又、イベント時には参加を呼びかけ、来ていただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での意見を参考に取り上げ、話し合いを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議が開かれ、そこでの意見を活かしサービス向上に取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での近況報告や、地域住民の方に対する認知症講座の協賛など、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容と、その弊害を認識しており身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で、「身体拘束・高齢者虐待防止委員会」を立ち上げており、委員会活動の中で虐待防止についての啓発活動が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等により学ぶ機会があり、成年後見人制度を利用されている方も入居中である。入居者様およびご家族様より制度利用の要望があれば、支援できる体制である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書、パンフレット等を使って説明し、疑問・不安点についても各専門で話を聞き説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、問題が生じた際は速やかに対策案を検討して回答し、運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員のミーティングにより出された意見や提案等を運営者や管理者を交えた会議等で伝える事により反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自の企画提案等に耳を傾け実行できる環境を作っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市や法人内の研修に積極的に参加し、意識・質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎市認知症グループホーム連絡協議会に入っており、そこで意見交換などを行い、互いにサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に会って話を傾聴し、本人を受け止め信頼関係が持てるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様とご家族の思い違いや、それぞれが望む事などを理解しながら、その家族自身も受け止めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内のグループホーム担当のケースワーカーがおり、グループホームだけでなく、広い範囲の支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者の様子に気を配り、一人一人の施行・人格を尊重しながら、お互いの信頼関係が保てるように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と常にコミュニケーションをとり、相談しながら一緒に支えていけるように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人が訪ねて来られやすいよう場の雰囲気や気を配り、また来て頂けるよう言葉かけをする等支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その方にあった言葉かけや雰囲気作りをし、レクリエーション参加の呼びかけや家事手伝いにより関わり合い支えあえるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院により退居された方に対してもお見舞いに言葉かけを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの希望等に応えられるよう努力し、対応が難しい場合は家族と相談し対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しつつ、職員が家族等と馴染みの関係を築くことにより把握する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に利用者の様子に気を配り、職員全員が現状を総合的に把握する様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族にもケア会議に参加して頂き、本人様及びご家族の希望やケアマネ・職員一人ひとりの意見を反映し介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を業務日誌や個人カルテに記載し、常に情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に対応し、出来る限りの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアとの継続的な繋がりや地域のイベント等への参加をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様及びご家族等の希望を大切に、協力病院による医師の診察を受けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝バイタルチェックをしており、一人ひとりの状態や、気づきを看護職員が定期的に訪問した際に伝え、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院とホーム間で本人様の情報交換がなされている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様・ご家族・主治医・職員間で本人様の希望や苦痛の軽減等、最善の方法を話し合っ方針を決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	消防署立ち合いのうえ、避難・消火・通報訓練を行っている。また施設に防災委員会を立ち上げ、月に一度防災訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であるという尊敬の念を常に持ち、優しく丁寧な言葉遣いで接している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の希望を聞いたり、意思表示の難しい方には、表情や反応を見ることで察しとり、それに沿った支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分の把握に努め、居室でゆっくり過ごす時間を設けたり、レクリエーション参加への呼びかけをする等、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの個性に応じて、それぞれの個性にあった身だしなみやおしゃれを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好を知り、献立に反映させる。自分も参加しているという喜びや満足感を持っていただけるよう、その方に応じて、配膳やテーブル拭きなどをして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や摂取量、嚥下状態を把握し、その方にあった食事形態、食事量を提供し、必要に応じて食事介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアが習慣づくよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターン、週刊を把握し、可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の便秘の原因を探り、御家族とも相談しながら予防と対応を行っている。場合によって医療との連携を図り、処方を受ける。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが、本人様の希望の時間に合わせたり、体調を考慮したり、覚醒している時間を見るなど、入浴を楽しめるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のリズムに応じて、必要な休息や睡眠が取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の状態の経過や変化などに関する日常の記録を医師に情報提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、配膳など可能な方には手伝って頂き、役割のある充実感を持って頂く。また、特技をお持ちの方には催し物の際、披露する場を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見や紅葉等、天候の良い時、ピクニックへ出掛けたり、初詣、ランタンフェスティバル、おくんち等の行事見学、ドライブ・買い物などの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の希望があれば、時間の調整を図り買い物へ付き添っていくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望されている場合は、本人様自ら会話して頂き、難聴の方の場合は、職員が間に入り会話ができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は常に清潔であるように心かけ、心穏やかに過ごせるよう配慮している。また、生け花を置くことにより、季節感を楽しまれている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにテレビやソファを設置し、利用者様が集まりやすく、自由に過ごせるような場所を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様が使い慣れた馴染みの雑貨や家具などを設置し、居心地の良い部屋となるように心かけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで、あらゆる場所に手摺がつけられており、安全に生活できるよう配慮されている。また、一人ひとりの理解力を見極め、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にするための環境づくりを心かけている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270102777		
法人名	社会福祉法人啓正会		
事業所名	グループホーム モン・サン西山3		
所在地	長崎県長崎市西山1丁目2番7号		
自己評価作成日	平成26年9月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活の場として、その方らしく生きられるよう、何を求められているのか。その方及びご家族の立場となり考え、その想いに少しでも近づけるよう安心・安全にケアに努めます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、日々実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流がよく行われ、相互に良い関係が出来ているように思える。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	長崎市役所・包括支援センターと協同となり、地域の方に対して、公民館にて認知症を理解して頂く講習会を開くなど行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催され、近況報告がなされている。事業所に対しては、地域での行事参加の要望でその他理解を得ている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加もあり積極的に協力関係を築くよう取り組まれている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を中心に身体拘束に対して防止するよう働き掛けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・高齢者虐待防止委員会H25年3月より結成。年間に2度の勉強会や月に1度の全体会議にて、啓発活動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、勉強会の開催もあり職員も徐々に浸透している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	職員にて伝える事があれば説明を行うが、疑問点・不安は、的確な返答が必要な際は管理者より説明がなされている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時、交流は持つよう心がけており、意見や要望は、管理者に伝えて考慮されている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人・ユニット・委員会からの提案を伝える機会は常にあり、運営に反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況の把握はできている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には自主的な参加者が多く、特別な研修を除き、シフトの調整が行われ受講し、内容を報告する機会もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎市グループホーム連絡協議会としての組織の活動、法人内各事業所との月に1度研修会開催と、他事業所多職種の職員との交流機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴し、まずは安心感を持って頂くよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	傾聴し思いを受け取り、何を望まれているか知り信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様・ご家族の想いと、グループホームの一員として、どうケアを行うかなど見極めて支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に尊重し、相手の立場になりケアを行っている為、信頼関係が出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との面会時、職員と会話する時間を気かけてつくり、想いを追求しケアにつなげている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族の協力を得ながら面会をおこなったり、情報からの思い出の場所への外出支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの関係があり、座席の位置など多方面に配慮し、支援に配慮し支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次の入所先へ面会・見舞いに行き、気軽に交流できる断ち切らない取り組みを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴を行い、出来る限り希望に近い生活をして頂いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりに担当の職員がおり、より深く把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カルテに一日の様子が記入され、朝夕申し送りですべての職員が把握できている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族参加のケア会議も行われ、本人家族の思いが反映されるプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のカルテに記入されており、情報の共有、ケアに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に応じて、プラン変更を行い、捉われない支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居以前より通われていた本屋での買い物であったり、自治会行事等での地域の方との交流、長崎市の催しがあれば見物に出るなど、事業所外での活動機会も設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族または職員にて受診できるように支援できている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療時、相談ができ、適切な受診が受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に連携がとれている。特別に入院した場合にはホームとの情報交換が行われている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病院を中心とし、本人様・ご家族の思い、事業所での対応できる事の方針を共有し、チームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	委員会が中心となり、心肺蘇生法・AED使用など緊急時の訓練が行われ、職員全員が対応できる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	防災委員会が中心となり、講習を受けることで意識を高め、様々な状況を設定した訓練を定期的に行っている。地域との協力体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より言葉かけには十分注意し行動されている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に担当の職員が決まっており、より深く接し理解する事で、希望や自己決定を察する		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まずは傾聴し、何を望まれているかを知り、より希望に近い状態になるようチームで支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前に好まれた洋服の持ち込み、買い物支援時はその方の好まれる衣類を購入され、支援が出来ている。おしゃれする喜びを感じれるよう気掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片づけは特定の方の作業になり、他の方々には五感で楽しんで頂けるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの状態の情報の共有が出来ており、食事の進行の仕方、言葉かけ、水分摂取方法、量など統一されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	能力に応じ口腔ケアが出来ており、歯科訪問診察を受けている方もいらっしゃる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間が毎回記録されており、行動の変化の情報を共有し、失禁を減らし、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	病気、服薬状況、口腔状態、機能能力、食形態など関連を把握した上で、医療との連携、日常生活での予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各ユニットにて曜日が振り分けられてある為、希望があれば入浴可能な体制が出来ている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に応じた状況を、家族との協力も得ながら提供し、精神面での安定も支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋が常に身近にあり、理解した状態で服薬の支援が出来ている。薬の変更時は日頃より深く観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれに合った楽しみ事を職員と共有したり、御家族の協力を得ながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があった近日には支援を行い。ご家族への協力が必要な場合、本人様の想いを伝え、今後につなげる支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて所持しており、買い物支援では、一人ひとりにお金の支払いを出来る限り本人様にお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望があれば対応している。ご家族との関係も配慮されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空間は、高齢者の動きを配慮された設備となっており、季節に合った飾り・写真・生け花などで楽しんで頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全員が座れるソファ・畳・食卓など広い空間が有り、それぞれが自由な場所で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様・ご家族の希望に添えるよう、安全も配慮しつつ、好まれる物や愛用品などを持ち込んで頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの行動を把握し、安全に行動ができるよう、配置・高さ・危険性など多方面に工夫されている。		